

第三二次世界

社会主義革命を

激化させる

革命的反戦綱領

一、今日における真の反戦綱領とは

何か

全世界的な反戦・軍縮・核廃絶運動の高まりと、プロレタリアートの戦術

人民諸君、

各界で革命的反戦行動のための闘争綱領に対する需要が急速に高まっている。戦後の政治闘争の中で、革命的反戦闘争のもつていた意義ははかりしれないほど大きい。それは大衆闘争に政治的活性と生きた息吹きをもちこみ、様々な諸運動の統合を媒介し、促進する旗手の栄誉をなってきた。六〇年代におけるベトナム反戦闘争がその象徴である。この旗に結集した時にはじめて、人々は自分たちが孤立し、バラバラに分散しているのではなく、共通の大義と目的のために固く結びつきあっているのだという自覚に燃えた行動を体験することができた。なぜなら、この闘争だけが、「自國」政府の利益に従属し、「自民族」の排他的利益のための労役を果たす道と誤別して、單一の世界人民の一部隊として勞苦し、闘っているのだという自覚、「直接目に見える成果」を約束する、しないにかかわりなく、共通の災厄をはらいのようとしている、同じ運命を負った世界の兄弟姉妹のために闘うという、人民のみが抱きうる眞の英雄主義・自己犠牲・献身をはぐくむことができるものだからである。

特に資本主義における反戦闘争は、次のような特質をもつた。すなわち、それが人民大衆を真剣にゆり動かし、高揚するのは、戦争一般に反対した時ではなく、帝国主義の略奪的・侵略的戦争、およびこれと結びついた自国政府の政体体制と对外政策に対する闘争となつた時だけだということである。だから、今日、新たな八〇年代を高揚させる反戦綱

領に対する需要が高まつているということは、世界的な支配体制全体に対する人民大衆の攻撃を牽引するプロレタリアートの革命的な世界政策に対する需要が高まつてることを示すものである。

今や、このような革命的行動綱領を広く行きわたらせるべき主体的・客観的条件が、確実に整いだしてきている。

全世界的にさざ波のごとく伝播しつづける反戦・軍縮・核廃絶運動の新たな波動は、今ようやく苦惱の中から生まれ出かかつたばかりである。それはちょうど、たった今母の胎内から生まれてきたばかりの草食獣のえい児を思わせる。その足どりはいまだ不安定で、今にも折れそうで、鐵鍼をきわめている。けれども、ひとたび地に足をつけるならば、その足は、ものはや折れ曲がり、地に伏してしまうことはなく、確実に体を支えて立ちあがり、そして次の瞬間には、もう大地を蹴って大草原をかけめぐり出すのである。彼には、安っぽい声援も、ましてや保育器も必要ない。ただ生まれ出する苦闘が彼をうち鍛え、大自然の摺りが彼をして風を切つて疾走せしめるのである。新たな人民運動の波動は、大歴史の動かしがたい摺理である。

八〇年代の反戦闘争は、以前の反戦闘争が、「歩先につき進もう」として、一歩踏み出すために、われわれは七〇年代という、これまで誰も見たことも聞いたこともないような時代の闇門をくぐつくることが必要だった。「トンネルをぬけると」雪国の中化粧（冬の時代

マル青同

史的「撲理」とはなんであらうか、

それこそは、社会主義体制の出現によって、世界を一挙になめつくし、のみつくす革命的生産力の発展が、幾倍にも幾十倍にも強く、早くなつたこと、そしてその結果として過渡期世界全体の中にあらゆる不均衡と歴史的断絶を埋めつくそうとする力がおさえがたく働いている」とである。七〇年代とは、この革命的生産力が旧来の体制を超えて噴き出してきた十年間である。七三年の石油ショックから今秋南北サミットにいたった「第三世界のパワー」とは何よりもこのことを雄弁に実証している。彼らの闘争は、帝国主義体制の下での途方もなく不合理な分配較差を革命的に変更することから普遍化していった。「中進国」のめざましい発展は、韓国・ASEAN・メキシコ等といった諸国が發言力を強めることになり、「先進国」はこの「追い上げ」の前に青息吐息をついている。資本主義体制内部では、アメリカとEC、日本との間の格差が急速に縮まり、日本は、この七〇年代の世界的生産力に依拠して、その市場を広げてきたのである。ソ連圏と資本主義圏の間に設けられた人為的障壁はますます意味をなさなくなっている。革命的生産の全世界化の結果として世界はますます平進化され、一つの政治連鎖の中に全世界がのみつくされている。

この発展は、必然的に、旧い政治体制全体——この革命生産活動の世紀化とあいのれなくなつた政治体制を桎梏物と化している。古い国家体制は、この不均衡と断絶を埋めつくそうとするおしとどめることのできない潮流に対して、これを「祖国」や「民族」の名のもとに抑止し、寸断する役割をなつてゐる。それこそは民族の利益を守るためにではなく、古い取得様式を守るためにである。七〇年代に形成された新たな革命的生産・創造活動は、古い取得様式を守るために権化と化した、できあいの政治体制内部での大激動・大分化・大再編の七〇年代の結果の上に古い政体体制そのものを震撼させ、搔くがせる革命的生産・創造活動が全世界を一つに結び合わせる時代、レーニン主義による世界統合のための政治理態を全力をあげて創出することに革命的生産・創造活動の全努力がふりむけられる時代である。第三次世界社会主义革命の全面的発酵はすでにさけることができない。

人民諸君！

過ぎる六〇年代後半の全世界的な革命的大衆行動こそは、第三次世界社会主义革命闘争の実に先駆けていた。(日本、欧米の学生運動、中国プロ文革、ベトナム革命——ベトナム反戦闘争、チエコ事件等)この闘争は、共産主義および革命的新左翼思想と直接結びついた政治立派派と、そこに組織された、政治的に自覚した青年がなつたものである。この闘争は、ソ連を資本主義「祖国」の脅威になつてゐるかと批判したのではなく、まさに経済と化しつつある政体体制を廃絶しようとしている。戦後体制の中で累積した独占的利益を守ることにやつきになつて、世界社会主義革命には反対しているとの同様であるが、告発したのである。それゆえにこの歴史的事件は全世界の革命的融合を促進した。過渡期世界の歴史的断絶を埋めるこの先駆的な革命思想は、七〇年代の全闘争を通じて今明確にその綱領を実現するための人間諸關係の土台——旧世界の抑止・寸断体制をつき破る革命的生産活動の世界的潮流化という基礎を得たのである。

人民諸君！ 支配階級のウソは、常に、できるだけの政体体制を弱めようとする要因や勢力を「民族・祖国の敵」だと、「国民の敵」や、ひいでは「人類の敵」だとがと呼ぶことに集約される。しかし、人類の軍事的、政治的、文化的、精神的破滅の足音は、実に旧体制が搖らいでくるところからしのびよつてくるのではなく、反対に、この旧体制全体を、革命的に、最後まで徹底的に破壊できないところからせまつてくるのである。

革命をもつて戦争をおしとどめよ、第二次世界社会主义革命をもつて、

第三次世界大戦の根源そのものを爆碎せよ！ この革命的人民運動の世界的連帯と結合を抑止・寸断する旧体制を革命的に転覆せよ、これこそが過渡期世界の歴史的撲理を代表する革命的人民運動の大義である。

二、八〇年代を高揚させる革命的反戦

潮流の行動綱領

人民諸君！

行動綱領とは、いうまでもなく、われわれがいかに行動すべきか、またいかに行動してはならないかを規定したものである。しかしながら、正しい認識や知識を得ることと、そのための行動に出ることとの間にこれまでの無限ともいえるへだたりを、青年や労苦大衆が感じている時代はかつてなかつた。理屈通りにいえば、いつも簡単にふみこえられるはずの「行動」という壁が、実生活では、その前に途方もない、形容しがたい断絶と深淵が広がつてゐるようを感じられている。この数年間で、一体幾たび、幾十たびの「国民行動への決起」が呼びかけられたであろうか。七年ロッキード事件、七八年有事立法策動、八〇年改憲阻止、八一年ミッドウェー寄港反対、等々。本来の保守政治家であった河野洋平君が、「愚直の行動」を語り、軍縮のための「行動への決起」を市民にむなし訴える時代、その横では「学生活動家」が、今は昔のように行動に出れる時代ではないですからと恥じらうそぶく時代、それが今日である。

現代の行動綱領は、このような事態が何故起りえたのかを徹底的にあばき出すことからひもとかかる。

われわれが激動する世界情勢から一步国内政治の分野に足を踏みいれると、睡棄すべき愚行や手のつけられない不毛、思いあがり、お手盛りに出会う。くされた政治体制を守り、おしあそとうとするなみなみならぬ精力だけが、中味のない愛國・国防のかけ声の下で油ぎつて浮き立つて國民がソッポを向いているのだというは明らかなる。政治が敗れればするほど國民の憤慨は強まるはづだからである。では人民の中に憤慨はないのだろうか。具体的な身近にせまる材料や危機がないからだというのも、輪をかけたウソである。身近な危機や身にせまる憤慨は、現代の寄食体制がありあるほど大衆に与えている。もちろんこのできないような社会的重圧が青少年に加えられている。ただその眞の正体が不明確にされており、誰のために、何のために、どこに向かって、何をめざすために、その「怪物」との衝突を開いたかねばならないかが全面的にあばき出されていないだけなのだ。

一方で社会發展の必然的結果として、古い取得様式の寄食的濫用行為の数々が、その一端を次々と明るみに出されている。小型ロッキード事件、姑息な小型角角、小小佐野の百鬼夜行、談合入札等の不正、官吏の地位利用等々、國家機構・行政機構と、私的資本との慈着が生んだ腐敗行為とそのもたらす精神的作用が社会をシロアリのごくむししばんでいる。このような政治現象は、現代の多くの国々にみられる。社会主義国でもまた同様である。過渡期世界とは、社会主義と資本主義という二つの社会経済制度の特徴が一つに結合した歴史段階のことである。無数のヤーリン主義的官僚体制の恐怖の小話がこれにつけ加わる。事實はその正反対である！

現代世界における最大の三百代言とは、「資本主義にしる社会主義」による、過度の中中央集権や強大な中央政府、過度に強力な官僚体制や国家機構が、かかる腐敗や停滞の根源である」という説そのものである。(スラム市と農村、工業と農業、精神労働と肉体労働の間の、国家的なものと「私的」なものとの間の、国有産業と私経営産業との間をはじめとする様々な産業分野の間の、各地方間の政治的・文化的な発達水準の差異の間

つて)社会が危殆にひんしてゐるのである。

都市と農村、工業と農業、精神労働と肉体労働の間の、国家的なものと「私的」なものとの間の、国有産業と私経営産業との間をはじめとする様々な産業分野の間の、各地方間の政治的・文化的な発達水準の差異の間

1981年12月1日

このように、革命的行動とは、個人的、私的にはどんなにまじめで善意なものであろうとも、腐朽せる政治体制を支える結果をしか生まない意なものの、国家の願望や政策に対立する唯一の革命的政策のもとに結集するあらゆる改良の願望や政策をおし広めるために働くことである。で
ることであり、この革命的政策をおし広めるために働くことである。で
きあいの国家機構を革命的に解体することはあきらめて、社会の片隅で
私的教育のための活動に専念することによって、己の社会参加への欲求

しかし、このような寄食的取得様式全体に手をつけずに国民経済の安定を願い、努力するまじめな清潔な国家資本家たち、「財界司令部」諸君が今日、行政改革の断行を訴えるならば、われわれは、この政治機構全体の解体を唱える。彼らが世界危機の時代の国民の自覚を説くならばわれわれは戦時の世界人民の一部隊へと自己」を組織することを唱える。彼らが祖国の危機をどう守るかと訴えるならば、われわれはこの祖国の革命的敗北を促進する道を唱える。彼らが平和な世界秩序をと説くならば、われわれは革命的反戦闘争の高揚と激化を唱える。

まさにこのような國家の改良をめぐる“政治”に参加できないところから國民の政治的無関心が広まるのではなく、逆に、この國家機構を革命的に解体する活動に徹底的に組織されないところからこそ、國民の政治的痴呆化がしのびよってくるのである。

そうだ、三無アシズム、祖国防衛主義の翼賛体制ははじめな愛國心が高揚するから形成されるのでは断じてないのだ。あらゆる政治的・國家的な問題に対する強いられた無関心、輕信、嫌惡、憎惡、隔絶感、完全な断絶、ちょっと洗練よつて政治への侮蔑を表す習性、寄食制度が「創造」した政治行動不能性——これらがこの愚劣な「祖國」の肥大化と、たえがたい苦汁や苦役の体制を増大させ、全世界人民と根本的に敵対する結果になるにいかなる痛みも感じぬ「国民性」をつくり上げ、第三次世界社会主義革命と非和解的に対立する呪われた国家・社会体制を日々強化するのだ。

しての社会＝政治意識である。反動的国府論者が嘆くまでもなく、このような「祖国」に対する愛國心などが生まれようはずはないのである。祖国擁護のまじめな声が湧き上がらうはずはないのである。

この国家活動の必然的対極で人民大衆に残された唯一の行動の分野、人民大衆に許された変革活動の唯一の領域、それは完全無欠な私の願望を満足させるためだけの思考と行動の分野のみである。家族、老後、住居、保険金、学歴、レジャー・や・スポーツ、享楽、そして性欲。完全無欠なままで自分一人のことだけしか考えられない思考。政治は全く外的なもので、次の連休の計画をどうするか、彼女をいつホテルに誘うべきか、今までに自分一人のことだけしか考えられない思考。政治は全く外的なの貨上げ方法は自分の場合の年金計算に有利なものかどうか、共通の第一次の試験科目の変更は誰に不利か……といったことだけが、自分の「自主的発意」にもどぞく関心事であるという習慣と行動。これらの領域でさえ寄食的取得活動が支配権をかちえ、このもとで無惨な悲劇が続出していることは誰もが知っている。「まわりをみれば誰だってみな自分のことしか考えていないから」と答えることが唯一の政治問題へのかわり方であるという思考と行動様式、これらこそは、人間のもつて生まれた弱さやらゴイズムの本性の産物なのではなくて過渡期の第一段階の国家非政治体制そのものによって必然的に強いられている歴史的産物と

の、各国家間・民族間の、その他すべての領域にあるありとあらゆる較差、不均衡、歴経の間で生じる超過利潤を、私的にかすめとるために国家機構を利用すること、これがこそが過渡期の寄食階級の特質なのである。資本主義では、このために最も利用しやすい国家機構が社会の外にそびえ立つことによって、その社会が内部から崩壊している。社会主义では、このような寄食行為に利用されるほどに党機構・国家機構の組織が不完全であるために、ボーランドのような破産国家さえも生み出している。これこそが旧世界（＝過渡期の第一段階）全体を代表している古い腐れきった取得活動の本質なのであり、今日の国家は、この取得様式全体を統括し、維持するためにこそ社会外にそびえ立つており、その「公的」、「政治」行動をとりおこなっているのだ。

とを充足させようとする、あらゆる七〇年代型行動と恐れずに手を切ることなのである。この私的教養活動こそ、スト・ラッカード事件以降の過渡期における国家と革命の問題に対する日和見主義的な全理論と戦術が生んだ特質なのである。新たな革命的潮流の行動をなすための勢力や人材を、社会は、実は人々の予想をはるかにこえて大量に生み出している。ただ、これがあまりにも細分化された私的活動の「クレーター」の中に埋もれすぎているだけなのだ。革命的党组织の任務とは、いまでもなく、この現状を根本的に廃絶すること——こういつた状態そのものからあらゆる社会的活動を解放することなのであり、そのためには私的救済活動の綱領と根本的に異った革命的政策を完全にわがものとして身につけ、これをあらゆる社会勢力の中にもちこみ、おし広めることなのである。

党旗

56号
(1981·11·20)

全生産・全運動の三無フ
アシズム的死か、革命的
敗北主義による蘇生か！
共産主義理論の革命的息吹きを
反帝救国派と軍需寄食陰謀政治
の集合との非和解的分裂の情勢
の中にもちこみ、過渡期世界の
内乱主体を創建せよ！

主体変革を問わない三無祖国防衛主義の政治形態の泥沼的破局構造の中に革命的敗北主義の闘争方法をもちこみ、軍需翼賛專制を攻撃する内乱の理論と戦術を主体化する八〇年代の政治闘争に対する確信を手にせよ！

冬期一時金力シノパ要請

カンパ送り先

現金書留
東京都墨田区亀沢3-27-3
中村光雄
宛、郵送。

第一勸業銀行 鹽戸支店
〔郵便振替〕
東京一九〇七八四 党旗社